

「教育実習事後報告」

[公立高等学校 公民]

2週間の教育実習は大変なことも多々ありましたが、非常に充実した良い経験でした。教師という職業体験も貴重でしたが、社会人としての姿勢や働き方を身につける良い機会でもありました。

まず初めに一番驚いたのが、授業準備の大変さと教師の忙しさでした。それぞれの先生により違いはありますが、教科の授業・クラス担任・分掌・クラブ活動など実に様々な業務を現場の先生方は効率良くこなされていました。ここから私は、効率良く働くことの大切さを学びました。またそのためには、様々なことに対してある程度の諦めが必要だということも学びました。しかし、私は教科に対する知識の不足や慣れない作業に追われ、実習中に要領よく業務をこなすことが難しかったです。授業準備に多くの時間がかかり、文化祭前にもかかわらず、クラスの活動に多くの時間を割き、関わることができませんでした。これが、今回の実習おける一番の反省です。前もった準備の大切さを思い知りました。

実習の中で私に一番欠けていたことは、「何を伝えたいか」を意識して授業をすることでした。とりあえず教科書の内容とその周辺の知識を教えることに精いっぱい、「これを学んでほしい」という明確な目標を自分の中に持っていませんでした。そのため、研究授業で扱った単元の授業は、早口で多くの内容を話し、生徒にとりあえず詰め込むような授業になっていたと思います。私がこのことに気づくことができたのは、研究授業のフィードバックをいただいた時で、この反省を授業に活かすことはできませんでしたが、社会人になって誰かに話をするとき「何を一番伝えたいのか」を明確にするべきだと、この経験から心得ることができました。授業を担当させていただいたクラスの生徒には申し訳ない結果となってしまいましたが、話す際の情報の取捨選択・メリハリや強調の大切さもここから学ぶことができました。一方で、「教える」ということの難しさも同時に学びました。人に教えるためには自分が100を理解し、そこからかみ砕いて必要な情報を教えなければなりません。また「教える」立場の人の、少しの言葉の言い回しの違いが生徒の誤解を招きます。実習を通して、人の前に立つことの責任の重さを痛感しました。

反省点ばかりの実習でしたが、良い事もありました。廊下ですれ違った際に、フリートークでコミュニケーションをとったクラスの生徒がよく声をかけてくれたり、おもしろかったと言ってくれたりしたことが実習中の励みになっていました。また、コロナウイルスの関係で、職員室が実習生の控室となっていたのですが、教科の先生方にも良くして頂き、実習に取り組む姿勢を評価して頂けたことが何より嬉しかったです。教科以外でも親しみのある先生方を初め、多くの先生方が温かく見守って下さったことも実習中の励みとなりました。さらに、ホームルームを担当していたクラスの生徒たちが、文化祭に向けて団結を深めていく様子は感動的で、そこに携わることができたのは、私にとって非常に良い経験でした。文化祭で、生徒がそれぞれの個性を輝かせている様子はとても素敵で、学校生活や行事の大切さを教師の側から実感することができました。

このように学びの多い、貴重な教育実習でした。教師という道には進まずとも、学んだことを活かし、責任のある社会人になれるように努力したいと思います。